

## 放課後等デイサービス事業所Iamにおける自己評価結果

公表:令和 5(2023)年8月10日

自己評価期間:2023年7月20日~8月5日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2		長時間療育の際には公園や屋外で体を動かすようにしています。ジュニアの状態に合わせて部屋を分けて活動しています。
	2	職員の配置数は適切である	2	2		基準の人数は確保できています。ただし、個別支援に充足するには不足を感じる場合があります。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4			施設全体がバリアフリーの対応となっており、車いすや足元の不安定な方もご利用いただけます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	3		計画を立てて活動するようにしていますが、ジュニアの状況に合わせて変更することもあります。変更時の目標設定や振り返りを充実させたいです。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	2		今回が初めてのアンケートでしたが保護者が協力的で有難いです。保護者の思いを改めて知ることができました。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			すでにHPには評価用のスペースをつくってあります。2023年8月に公開し、次回は2024年2月に予定しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	1	2	第三者による外部評価を受けるまでには至っておりません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			職業人講話では毎月1回様々な職業の方の話を聞くことができ勉強になります。定期的な社員研修やその他委員会の開催で学んでいます。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			児童発達支援管理責任者を中心に、スタッフ間でジュニア一人ひとりの情報共有を行い、計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	3		アセスメントはしっかりと行っていますが、標準化されたアセスメントツールを使用できていません。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	2		活動方針や課題設定はスタッフ全員で立案し実施していますがプログラム化はしていません。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	1		個別の状況や状態に合わせた変更や、特性に合わせた支援だけでなく、活動範囲を広げる支援もしていきたいです。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		3	1	個別の状況や環境に合わせた内容で活動できるようにしているため、課題をきめ細やかに設定しながら柔軟に取り組みたいです。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4			ジュニアの状況に応じて本人と保護者のニーズに合わせてながら個別活動・集団活動の両方の支援内容を取り入れていくようにしています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1		朝礼で利用ジュニアの確認や送迎時間、活動内容、役割分担をして安全に支援ができるようにしています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			支援終了後には必ず振り返りをしています。支援内容や気付き、明日に活かす内容についても独自のグループウェアに記録を残しています。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		1	日々の支援記録はグループウェアで行うため、入力ミス等を防ぐよう徹底してしていきます。データ管理ができることで支援の検証や改善につなげます。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			6ヶ月に1回モニタリングをしています。また、必要に応じて計画の見直しを行えるよう支援者会議を開いてその必要性を判断しています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	1		基本活動を組み合わせ合わせて行っていますが、内容に偏りが出た場合には、総則に沿って支援内容を考案し支援していきたいです。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	1	3		サービス担当者会があれば、ジュニアの状況を把握しているスタッフが参加できるように調整しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	1		送迎時には学校の先生と情報共有させていただいています。送迎時間の変更なども学校や保護者と連絡を取り合って確認しています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	1	2	現在、医療的ケアの必要なジュニアのご利用はありません。今後ご利用の場合には、連絡体制を整えていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1		3	就学前に利用されていた機関と連携が必要な場合があれば情報共有しつつジュニアの成長を支援していきたいです。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1		3	Iamから移行される時には、これまでの保管データ等の情報を提供し、つながりのある支援を継続できるようにします。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1		3	分からないことや迷うことがある場合には専門機関と連携しています。研修にも積極的に参加していきたいです。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3		1	地域のイベントや外出先の選定では様々な人と交流できるように取り組んでいます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	1	1	自立支援協議会へ参加しています。もっと地域の会や連絡協議会に参加していきたいです。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			連絡ツール(CW)を使ってご家族に日頃の状況や様子を写真入りで伝え、共通理解をもてるよう努めています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		2	2	スタッフ間ではペアレント・トレーニングの重要性を話し合っています。保護者の必要に応じて取り組んでいけるとよいです。
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1		契約時にご説明させて頂いていますが、その他の書類も多いため、ご理解いただけるように今後も丁寧に説明いたします。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			保護者からのご相談は随時受け付けています。スタッフ間でも共有し話し合っ対応するよう努めています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	3	現在、保護者が父母会や保護者同士の連携をご希望されていませんが、ニーズがある場合には開催できるようにします。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			管理者を中心に速やかに対応します。必要に応じて相談員とも情報共有したりして、改善と再発防止に努めます。

責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2		HP・CW・WEB通信(シパツウ)で発信しています。いつでも見て頂けるように、発信していることのご案内もしていきます。
	35	個人情報に十分注意している	4			個人情報が掲載されている書類は事業所にて保管及びデータにして保存しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			ジュニアの障害特性に応じたコミュニケーション方法で伝えるよう努めています。保護者との情報伝達は電話だけでなくCWでもお伝えします。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3		いつでも見学できる体制を整えています。幅広くIamの情報を伝えていけるよう努めます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4			全てのマニュアルを策定し、スタッフと共有・周知しています。Iamの掲示物として、いつでも手に取って確認できるようになっています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			年間に2回以上、定期的に防災訓練・避難訓練を行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			虐待防止委員会を設置し、毎月1回研修する機会を設けて取り組んでいます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2		身体拘束防止委員会を設置し、毎月1回研修する機会を設けています。やむを得ず身体拘束をする場合は、必ずジュニアと保護者へ説明いたします。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	1	2	契約時にご家族と確認しサインを頂いています。飲食物を提供することがあれば、指示通りに対応します。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	1		ケガや事故等の危険性が考えられる場合は、ヒヤリハット報告書を作成し、スタッフで共有と再発防止・事故防止に努めています。	